

特集2..

検討が進む広域行政

後志管内の19町村では、仕事の一部を共同で行なう「広域行政」の具体的な検討を進めています

北海道が進める市町村合併

今年6月、北海道は合併推進構想案を公表しました。市町村合併を進めるための新しい法律に基づき、道内市町村の具体的な合併組合せ案を示したものです(表1)。これによると、後志地域は3つのブロックに分けて合併を推進することとされています。

ニセコ町では、平成16年まで合併問題について積極的に検討しましたが、当面は合併しないとの結論を得ています。合併を進める北海道、既に合併しないことを選択しているニセコ町、これが今の状況です。

動き出した広域連携

そのような中、昨年12月に後志町

表1 後志地域の合併組合せ案 (作成：北海道)

| 組合せ区分 | 構成町村 | 人口 | 面積 |
|-------|------------------------------------|---------|----------------------|
| 後志A地区 | 島牧、寿都、黒松内、蘭越、ニセコ、真狩、留寿都、喜茂別、京極、倶知安 | 46,653人 | 2,441km ² |
| 後志B地区 | 共和、岩内、泊、神恵内 | 26,358人 | 605km ² |
| 後志C地区 | 積丹、古平、仁木、余市、赤井川 | 34,889人 | 1,015km ² |

村会では「後志ブランドデザイン」をまとめました。

これは、当面合併をしないこととしている町村が多い後志地域で、19町村が共同で行政運営の将来像をまとめたものです。この中で、「広域連合」(*)の仕組みを使い、町村の仕事を共同処理する新たな方法が示されました。

現在、これに基づき後志地域19町村による広域連合設立に向けた具体的な準備検討作業が進められています。

検討は始まったが課題も多い

この春から準備組織(後志広域連合準備委員会 表2)が後志支庁の



※ 広域連合
 いくつかの自治体が広域的に仕事を行なう仕組み。事務の共同処理により、地域課題の解決力強化や事務の効率化、行政経費の削減などが期待できます。連合長と連合議会議員を住民の直接選挙で選ぶことが可能です。